

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生					
配当 学年	全回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	初期アドルノの音楽エッセイを読む										
【授業の概要・目的】											
博士論文を書く以前の20代のアドルノは、音楽ジャーナリストとして極めて旺盛な活動を行っていた。それは地元のフランクフルト新聞での様々な演奏会評から、音楽雑誌におけるエッセイの類まで、無数の数にのぼる。当時のアドルノの文体は、のちの体系哲学的ながんじがらめの理論にとらわれることなく、極めて洒落なエッセイのスタイルによっているが、これらは後年の彼の思想が一体どのような具体的な音楽に即して着想されたかを知るという意味でも貴重であり、さらに20世紀音楽の全体状況を理解するうえでも必須のテキストであるといっても過言ではない。この授業では主としてQuasi una Fantasiaにおさめられたエッセイを扱う。なお授業においてはテキストの拙訳を配布するので、ドイツ語の知識は必ずしも必要ではない。											
【到達目標】											
アドルノの思考の基本パターン（いわゆる否定的弁証法など）を知ると同時に、彼の音楽論で言及される音楽作品についての基本的知識を身につける。またテキストを一文一文、その綾や間テキスト的な暗示や多義性も含め、深く読み込むことを重視する。											
【授業計画と内容】											
<p>予定しているのは以下のテーマであり、それぞれに3回程度の授業を充てる予定である。</p> <p>1 - 3回：『啓蒙の弁証法』におけるセイレーン神話の分析</p> <p>4 - 6回：音楽ジャーナリストとしてのアドルノの活動の概要</p> <p>7 - 9回：アドルノの演奏家論</p> <p>10 - 12回：Quasi una Fantasia（Motiveの章）</p> <p>13 - 15回：同上（Musikalische Warenanalyseの章）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
【教科書】											
使用しない 毎回レジメを配布する											
【参考書等】											
（参考書） アドルノ 『楽興の時』（白水社）											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

アドルノ 『ミニマ・モラリア』 (法政大学出版)

アドルノ 『啓蒙の弁証法』 (岩波書店)

毎回レジメを配布する。なおQuasi una FantasiaはAdorno: Gesammelte Schriften 16に収められている。

[授業外学習 (予習・復習) 等]

アドルノの任意のテキスト (とりわけ参考書として挙げたもの) を読んでおくことが好ましい。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。